



編集兼発行
公益財団法人 小笠原協会
東京都港区海岸1-12-2
竹芝客船ターミナル2階
電話 03-3432-4921
FAX 03-3432-4487
振替貯金口座(郵便)
00190-9-64610
みずほ銀行芝支店
普通 3242428

小笠原協会創立60周年を迎えて

ご挨拶

公益財団法人
小笠原協会 会長
洪井 信和



今年、小笠原協会は創立60周年の記念すべき年を迎えることができました。

これもひとえに、当協会の活動を理解し、ご協力とご支援を頂いてきた皆さまのお蔭と心より御礼申し上げます。

小笠原協会の前身は、小笠原島民の帰島を目指して昭和22年に設立された小笠原島・硫黄島帰郷促進連盟です。連盟は島民帰島のために、小笠原諸島の施政権を有する米国や日本政府に対して粘り強く請願や陳情を繰り返して行ってきました。その甲斐あって昭和36年には、米政府より600万ドル(当時の金額で約21億6千万円)の補償金を得ることができました。ところが、この補償金の配分方法を巡って意見が対立し連盟は分裂してしまいました。

翌37年には、配分方法もまたまり補償金問題は決着しましたが、この問題の反省からこれからは旧島民の帰島を単に島民の問題だけではなく国家的課題として認識し、島民に加え学識経験者等を巻き込

んだ強力な団体を結成して問題解決を図るべきであるという方向が出されました。

昭和39年11月には、この方向に沿って新団体の設立発起人会が開催され、翌昭和40年5月8日に内閣総理大臣から法人の設立が認められました。初代会長には、昭和27年以来旧島民の帰島のために献身的にご尽力を賜ってきた福田篤泰衆議院議員を迎え、正式に財団法人小笠原協会が発足いたしました。

協会が最初に取り組んだのは、小笠原への旧島民の募参でした。募参については、帰郷促進連盟が福田顧問を筆頭に強力に米国に要請してきておりましたが、昭和40年3月に米国から正式に募参の許可が下り、発足もない小笠原協会が実施業務を全て担当することになり、同年5月に日航機をチャーターして第一次硫黄島募参が実施され、同じく巡視船による第一次小笠原(父島、母島)募参が実施されました。この硫黄島への募参は、小笠原返還後も東京都の主催により現在までも続けられています。

この募参の実現により島民帰島の機運が盛り上がり、さらに昭和41年9月の福田会長以下協会幹部が訪米して米政府へ島民帰島を強く陳情したことなどにより、翌昭和42年11月の佐藤首相・ジョンソン大統領会談で1年以内の小笠原返還が合意され、翌「昭和43年6月26日」23年の長く険しい道のりを経てようやく小笠原諸島が返還されたのです。

しかしながら、島は返還されたものの、強制疎開以来24年間の空白から島はジャンクル状態でとても島民が帰島・定住できるような状況ではありませんでした。

そこで協会として小笠原の復興を強く訴え、翌昭和44年には小笠原諸島復興特別措置法が施行され、翌年には小笠原諸島復興5か年計画が策定され、小笠原は復興への道を歩み始めましたが、硫黄島につきましても5か年計画の対応にはならず、未だに帰島で足りないという厳しい現実が続いておりました。

平成25年には、新たな公益財団法人としての認可を受け旧島民の帰島促進と小笠原諸島の復興発展のために改めて尽力していく体制を整えました。

昨年は小笠原島民強制疎開から80周年の節目の年でしたが、旧島民の皆さまは高齢化したり鬼籍に入られている方が多く、現実的には帰島を希望する方はごく僅かになっていくことは事実であります。一方で、小笠原諸島復興開発特別措置法では、小笠原の国境離島の重要性から小笠原への移住、定住を助めています。これからは、旧島民と二世、三世を含めた旧島民関係者で希望する方々の帰島を促進していく必要があります。

小笠原協会は、今後とも小笠原への帰島、移住、定住を希望する皆さまを支援し、小笠原の更なる復興、発展のため尽力してまいりますので、これからも皆さまのご支援ご協力を宜しくお願い申し上げます。

祝辞

東京都議会議員(島しょ選出)
自由民主党
三宅 正彦



小笠原協会は昭和40年5月に設立され、今年60周年を迎えられますことを心よりお祝い申し上げます。

小笠原諸島は昭和43年6月に米国から施政権が返還され、昭和19年に本土に強制疎開させられた島民の帰島が叶いました。貴協会は、昭和22年に設立された小笠原島硫黄島帰郷促進連盟の帰島促進活動を引き継ぎ設立されましたが、初代の福田篤泰会長は帰郷促進連盟から請われて顧問となり島民の強い帰島願望と窮乏からの救済を国会議員の立場から政府に対し幾度も厳しく質されました。また、昭和30年と41年には訪米団長として米国で精力的に且つ粘り強く要望・陳情を重ねるなど対米交渉に輝かしい功績を残されました。そして2代目会長には総理府の初代南方連絡事務局長などを長く勤め、島民の帰島促進など多岐にわたる多大な貢献をされた石井通則氏が就かれました。石井会長在任時には島民の帰島が実現し、島民が混乱なく速やかに帰島できるよう尽力されるなど貴協会の礎を築かれました。

今日の小笠原の発展は、無から生活を始めた旧島民と多くの関係者によるところですが、私は帰島、施政権返還に貢献された小笠原協会初代福田会長はじめ先達に対する恩義を忘れてはならないと、小笠原諸島返還50周年の式典祝辞の中で遺徳を偲ばせて頂きました。

今年で小笠原諸島の強制疎開から81年が経ちましたが、硫黄島、北硫黄島の島民は未だ帰ることが出来ない状況が継続しております。こうした島民たちの心情を汲んでせめて島への募参回数、宿泊日数や参加対象・人員の増加に取り組むべきと考えます。

祝辞

小笠原村 村長
洪谷 正昭



小笠原協会におかれては創立60周年を迎えられるにあたり、心よりお祝い申し上げます。昭和19年の強制疎開より、故郷を離れ数々の苦難を強いられていた多くの島民にとって、昭和43年に小笠原諸島が日本に復帰したことは、長く強く待ち望んでいた帰郷という喜びに満ちた出来事でした。

小笠原協会は昭和40年の設立以来、小笠原諸島の日本復帰、その後の島民の帰島支援に大きな役割を果たしてこられました。日本復帰にあたっては、初代会長の福田先生が小笠原諸島復帰前に陳情のために渡米までされたり、また復帰が成った後も多くの島民の帰島相談と支援に奮闘されたりと、並々ならぬ苦勞があったこととお聞きしております。小笠原協会の今日までの活動に対し強い敬意を表しますと共に、この機会を借りて改めて感謝を申し上げます。

さて、小笠原諸島の日本復帰より57年の月日が経過いたしました。村は、復帰以来、国・東京都ほか各機関の多大な協力、村民の方々の故郷を思う熱い心と努力を糧として、復興、発展の道を進んでまいりました。

しかしながら、村民の悲願である航空路についてはいまだ実現には至っておりません。自立した産業構造の成立もなお道半ばであります。また、新たに世界自然遺産となった自然環境の保全、復興期より整備された各種インフラの更新といった新たな課題にも直面しております。

祝辞

小笠原村 村議会議員
池田 望



多くの高いハードルはございますが、島民の皆様にとつてのかけがえのない故郷である小笠原諸島を、より素晴らしい姿として未来に引き継いで行きますよう、挑戦を続けてまいります。

小笠原協会におかれましては、引き続き旧島民への支援、小笠原村の更なる発展にご協力いただけることを期待しております。

小笠原協会会員の皆様様のますますのご発展とご健勝を祈念いたしまして、お祝いの言葉とさせていただきます。

代福田篤泰会長の行動力、小笠原島民に対する熱き思いが礎となっているのを感じております。

さて、今年には強制疎開から81年、終戦から80年を迎えます。小笠原諸島の戦後復興にあたっては、国、東京都、貴協会をはじめとする関係機関のご尽力により、現在の小笠原諸島が築けております。しかし、硫黄島におかれましては、いまでも帰島が叶わない現状があります。小笠原村議会としても旧島民の故郷への想いを大切に、小笠原村が実施している硫黄島訪島事業への協力、支援を積極的に進めたいと考えています。

最後に、貴協会が60周年を機に、新たな素晴らしい歴史を築かれ、さらなるご発展を遂げられますこと、並びに貴協会皆様方のご多幸ご健勝を心より祈念申し上げます、お祝いの言葉とさせていただきます。

昭和41年、初代福田篤泰会長が強制疎開により離島した島民の要望に応え、国内のみにとどまらず渡米し日本復帰への要望活動を行い、昭和43年の小笠原諸島日本復帰への道を開かれました。私自身もこの当時のご苦勞があったお話を伺っており、現在の貴協会の活動からは、初

小笠原協会より
本年度刊行予定の「特集小笠原第70号」を小笠原協会創立60周年にふさわしいものとなるよう検討しています。
そこで、小笠原協会並びにその前身の小笠原島・硫黄島帰郷促進連盟の設立等に関する資料をお持ちでしたら、協会までお寄せいただきたくお願い申し上げます。

「私と小笠原」
第19回

延島 冬生



本土から島へ

1977(昭和52)年小笠原村役場職員の全国公募で2期生として、2歳児の娘と家族3人で母島へ。その後、父母間で異動、5人となった。定年退職後、現在は老夫婦2人で父島に住んでいる。

赴任の船は定期船父島丸で38時間の予定が台風退避で約52時間。父島で1泊後、翌日弥栄「やえ」丸で3時間半で母島に到着。採用当時は、東京都小笠原支庁長が村長職務執行者で小笠原支庁母島出張所が小笠原村役場母島出張所を兼ね東京都職員の指導を受け村の事務学びながら様々な仕事をした。

窓口金銭受取、住民票の発行を始め、村民会館管理、へき地保育所の手伝い、診療所応援、消防団分団、選挙投票所、簡易宿泊所(簡泊)の事務だけでなく、戦没者遺骨調査、遭難者捜索活動、火葬場作業と村の業務とされる「ゆりかごから墓場まで」に広く関わった。

これは村・島・地域全体をとらえ直す契機となった。都総務局、建設局、水道局、港湾局等出身の支庁職員からさまざまな教えられる機会にも恵まれた。

1979(昭和54)年村政確立し、村は村長・村議会議長の下に独立した自治体として歩み始めた。都から村への派遣職員はしばらく続く

が、こうした歴史的経過を直に体験できた極めて稀な例だと思ふ。

強制疎開と空襲で資料が残っていないと思つていたが、母島した島民は母島の旧沖村ばかりでなく北村、硫黄島の方もおり、戦前の様子を聞くことができ、地名・歴史・文化研究の出発点となった。父島では欧米系の方々からロンパン(地名)、ピーマカ(料理名)など英語、ハワイ語起源の言葉などを教えて頂いた。

自然に囲まれて

特別天然記念物ハジマメグロが街中でパイヤの実をつつき天然記念物オカヤドカリがのそのそ歩き回り元固有種ビービーデ(ムニンダイコ)が咲き誇り、夜は内地では滅多に見られないカノープス(老人星)がよく見え、台風や冬の荒れた海で定期船が欠航し自然の偉大さと人間の小ささを感じた。

戦前の国有林に詳しい古老や都立大を始めとする来島する研究者に教えられ、住んでいるからできることもあると世界自然遺産の島で自然環境調査とボランティア活動を自主的に又NPOに協力、続けている。古老たちと小笠原研究の先生方のお蔭である。

干ばつ・台風

離島では干ばつは災害だ。水道水を河川に頼っており、農業も同じ。1980(昭和55)年父島の給水制限期間は110日(うち断水日数59日)、建設水道課配属で5階建てアパート屋上に上がっての給水バルブ開閉作業は大変だった。

1983(昭和58)年台風17号は、父島・母島の住宅・産業に壊滅的打撃を与え激甚災害に指定された。母島支所で仲間の職員と島民に支えら

れ、対策・復旧業務に当たった。この時、古老から1940(昭和15)年以來だと言われ、災害の記録と継承も大事と感じた。

ロースト・シュロツ葉 ぎ・タコの葉細工

母島の先住移民の名がついた岩石が戦前は建物・井戸枠・かまどなどに広く利用されていた。島民の皆さんと相談しながら石切場跡に、ロースト造倉庫を移築し、郷土資料館を開設できた。屋根は自生する固有種オガサワラビロウの葉(シュロツ葉)で葺き、戦前の家屋建築が復元された。展示品は島民の寄贈も多く、また戦前の工芸移出品であった固有種タコノキを材料とするタコの葉細工の展示・体験も行われている。これも島民の方の教えが元になっている。

行幸啓

1994(平成6)年天皇・皇后両陛下は硫黄島・父島・母島を行幸啓、1927(昭和2)年昭和天皇行幸以來である。噂はあつたが下見が2ヶ月前でそこから準備がスタート、お立ち寄り場所と沿道整備、人員配置など慌ただしく、2月の不順な天候による予定変更もあつたが、村民の協力、職員に助けられ母島でお迎えした。

日本一広い村

日本最南端の南島(マールカス)に選挙事務で、硫黄島には選挙事務・墓参団や火山列島3島クルーズなどで、日本最南端の沖ノ島島は村主催視察会で、西之島は小笠原海運のクルーズで訪島・望見できた。小笠原諸島が本土と北西太平洋の島々との架け橋であるからこそのこと、諸文化が融合して創られた小笠原諸島の歴史と文化を、基盤である自然環境とともに継承することが大切だと思ふ。

小笠原村主催 硫黄島訪島事業

国や東京都の協力のもと、自衛隊航空機による小笠原村民を対象とした硫黄島訪島事業を昨年11月27日(水)に実施しました。当日は好天に恵まれ、参加した硫黄島旧島民48名の皆様は、戦前の暮らしを偲んで、生活跡や小学校跡を巡り、拝礼を行いました。



旧島民生活跡にて

この後、硫黄島旧島民平和祈念墓地公園において献花による旧島民慰霊を行いました。かつての硫黄島は、南国の恩恵を存分に享受し、豊かで平和な島でしたが、戦争によって荒廃し、さらに旧島民の母島も許されない現状にあります。村としては今後も、旧島民の心情に報いるための訪島事業を行うと共に、遺骨収集帰還事業に積極的に協力してまいります。



祈念公園での献花

東京都主催 硫黄島墓参

かつて多くの方が暮らし、戦の惨禍を経た硫黄島は、現在、活発な火山活動等により、政府において一般住民の定住は困難であるとされており、島民やその子孫の方々が故郷に帰ることのできない状態となっています。そのため、東京都は、およそ半世紀にわたる墓参事業を実施しており、令和6年度第2回の硫黄島墓参を令和7年2月13日(木)に実施いたしました。

今回の参加者は総勢54名です。本土からの参加者は、入間基地から自衛隊輸送機で、小笠原村在住者は父島から自衛隊ヘリコプターで訪島しました。

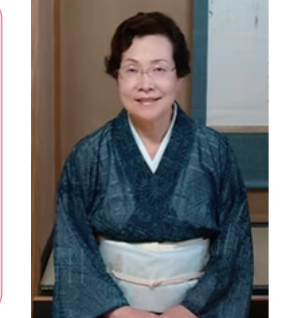
硫黄島基地到着後、まず東部落跡を訪問し、天山慰霊碑を巡拝しました。続いて、硫黄ヶ丘、貨物廠、漂流木部落跡を巡り、小笠原村の平和祈念会館で休息後、旧酒造所跡を経て、島民墓地にて供物をお供えし、献花を行いました。



島民墓地

その後、摺鉢山を訪問し、最後に鎮魂の丘で献花を行いました。硫黄島基地に戻り、それぞれの機材に搭乗して硫黄島を後にしました。概ね6時間の滞在でした。東京都では引き続き、旧島民の方々の心情を踏まえ、国や小笠原村と連携し、墓参事業を実施していく予定です。

強制疎開船「利根川丸」で生まれた「利子」です 小林利子



母島の子が生まれると縁起が良いと、船長さんは皆さんにキャラメルを配って祝ってくださいました。そして「利根川」の「利」を取って「利子(としこ)」と名付けてくださったそうです。たまたま運よくお産婆さんが乗り合わせをしていらして、取り上げていただいたそうです。その後、私が長男を産んでから、両親との方をお尋ねしましたら、亡くなつていらつしやいましたが「あの時、船で生まれた子は、どうしているかしら」と義母様がおっしゃっていらしたことをお嫁さんからお聞きしました。仏様にお礼をしてみました。

前略失礼致します。このたび、小笠原特集第69号強制疎開から80周年記念号を拝読させていただきました。感動いたしました。私の生まれた場所の利根川丸が表紙にあり、はじめて拝見したからです。

たまたま、令和六年十二月母島に、固有種を守るボランティアに、茶友が行くとの事、私も同行させて頂きました。仕事は出来ませんでした。が、終了の懇親会に出席させて頂き、島を守る方との交流も出来ました。また島をめぐり、両親の植物の仕事畑、子供たちと尋ねたことなども思い出しました。

私は第六次便、昭和十九年七月十六日に出航したので、私の誕生日です。両親には、大変な思いをさせた出産でした。両親からは、その時の様子は伺っていません。母は、よほどつらかったことだったのでしよう。その時の様子は伺っていません。



利根川丸

「園子」さんをさがしています。小笠原からの強制疎開船では、「利根川丸」のほかに、「能登丸」と「芝園丸」でも、お子さんが誕生されています。能登丸では、「能子(よしこ)」さんが誕生され、機関紙小笠原215号(平成29年1月1日付)で紹介させていただきました。芝園丸では、「園子(そのこ)」さんと命名されたとお聞きしていますが、そのご消息は、わかっていません。「芝園丸」で誕生された「園子さん」の情報を存じの方がおられましたら、小笠原協会までご一報いただきたく、お願い申し上げます。

母島は、母なる島よ我が母の我を宿せいふる里の島



芝園丸



能登丸

母島はこの葉?腕輪、指輪をつくる体験、素敵な女性が指導してつくることができました。ウクレレも体験しました。夜は星座、マイマイの生活?姿等...スナックでは鳥寿司も頂きました。八十年の歴史(自分史)を振り返る楽しい一時でした。母島は 母なる島よ我が母の我を宿せいふる里の島

2024 小笠原協会交流ツアーに参加して 高沢正則



小笠原での初日

小笠原に降り立った時から正に南国そのもの。青い海、澄んだ空気、さわやかな風、これだけで来たかいたがったというものです。

具合の悪かった体調は一機に吹き飛ばされました。着いた日の午後から戦跡ツアーに参加。

山並みを歩き日本軍の跡が残る砲弾などがあり、板長さんの説明を伺いその時代に思いをはせ今の日本の平和の有難さを実感した山歩きでした。

その夜は小笠原島民との交流会で、島寿司や亀煮込み等、真心の島料理。そして、島民の南洋踊りや小笠原太鼓の演技にいたく感動しました。

おが丸で竹芝を出発!

10月31日午前11時、竹芝を出港、片道千キロの船旅に大きな期待とちょっぴりの不安の中、はじめは心地よい揺れにデッキに出て東京湾のキラキラ光る海原を眺めておりましたが、東京湾を出るころには体調がおかしくなり間違いなく酔っ払いになっていました。

この後は夕食もとれずただひたすらベットの横になり気が付いたら小笠原の二見港に着いておりました。

メの餌やり体験、はからめという植物の採取、福田篤泰先生像の見学等、充実した島めぐりとなりました。どこでも島の人々は優しく、時間の流れはゆるやかで、充実した3日間が過ぎました。

父島を後に

期待以上の体験に島の余韻に浸っている暇はなく、あっという間に帰りの出航時刻となり、船に乗船すると、よくテレビで見る光景ながら、島民や地元の方々の盛んな見送りに、最後まで感激させられっぱなしでした。すっかりシャッターに取め島を後にしました。

行きで学習した船酔いは帰りは全くなく、上京する村の人たちと酒を酌み交わしながら、元気に翌日15時に竹芝に戻ってくる事ができました。様々な事にありがとうございました。

結びに、小笠原協会のスタッフの方々、共に旅した仲間の皆様に心より感謝するとともに、職場に戻って、この3月に13期として行く教育委員会の事務方にも島の様子を伝えることができました。このあと小笠原に伺う中学生達も、何卒よろしくお願い致します。

獅子舞は会場である脇浜なぎさ公園へと向かいます。脇浜なぎさ公園では10時の海びらき宣言とともに小笠原太鼓が響きわたる中、集落を回ってきた獅子舞も到着し、いよいよ第41回海びらきイベントが始まります。新成人達が樽酒を割る鏡開きが行われ、会場の参加者に振る舞われます。今年の新成人は5名。アメリカからいらした二十歳の観光客も飛び入りで参加しました。

ステージでは南洋踊りが披露されます。腰巻やタコノ葉の頭飾りをつけた踊り手がタマナという木で作った打楽器カカのリズムに合わせて独特の歌詞の歌で踊ります。ステージの下でも踊り手の動きをまねて手足を動かす人も。ステージでのプログラムが終わるといよいよ参加者お待ちかねのぎよさん飛ばし大会です。ぎよさんは漁業者が愛用しているサンダルのことで、島民のほとんどが履いています。そのぎよさんを3人1組になり足から脱ぎ飛ばして飛距離を競います。

母島だより 坂入祐子

日本一早い海びらき

小笠原母島では1月1日の元旦に海びらきが行われます。朝からお囃子に合わせて村民の手作りの獅子舞が集落を回り、今年1年を無事に過ごせるよう子供達や大人の頭を囃んでいきます。手作りのかわいい獅子舞なのに怖くてなきだす子もいます。そして

獅子舞は会場である脇浜なぎさ公園へと向かいます。脇浜なぎさ公園では10時の海びらき宣言とともに小笠原太鼓が響きわたる中、集落を回ってきた獅子舞も到着し、いよいよ第41回海びらきイベントが始まります。新成人達が樽酒を割る鏡開きが行われ、会場の参加者に振る舞われます。今年の新成人は5名。アメリカからいらした二十歳の観光客も飛び入りで参加しました。

二日目

「海から体感する小笠原」で、クルージング船に乗って海を満喫。イルカの親子が船のすぐ脇と一緒に泳いでくられたり、クジラの親子まで発見。さらに、シヌノーケルを使って潜るとまではいきませんが、海の下までスケルトンで見えてサンゴ礁や大小さまざまな熱帯魚を手で触れられるくらいの距離感で、大感動を覚えました。

三日目

島内をレンタカーで周り、島の隅々まで見ることができ、海洋センターでのウミガ



に盛り上がりました。賞状や賞品も出て、嬉しいお年玉となります。

また、日本一早い海びらきの日本一早い初泳ぎには、泳がなくても海に浸かるだけでも「初泳ぎ証明書」が発行されることとあってなんと70名以上の参加者がありました。

伝統料理の亀肉の煮込みも振る舞われ、島民も観光客も一緒になって暖かい元日の海びらきを大いに楽しみました。

また、日本一南にあるふると富士の小富士に登り日本一早い初日の出を見た方々には観光協会から初日の出登山証明書が発行されます。小富士からは海から登る日の出とともにクジラのジャンプする姿が見られることもありま。元旦からクジラの姿が見られたらきっと良い一年になることでしょう。

来年のお正月は暖かい島の日本一早い海びらきを楽しみにいらっしやってみませんか？

小笠原産・特産物 パッションフルーツのご紹介

いつも小笠原の農産物をご愛顧いただき誠にありがとうございます。

今年も島の農家が丹精込めてつくったパッションフルーツの出荷がはじまりました。

小笠原のパッションフルーツは太陽を燦々と浴びているため香りが強く、濃い甘み特徴です。

また、ビタミンAや葉酸が豊富なので、妊婦さんや美容と健康に気を使う方にもおすすめです。

皆様には現地直売価格でご案内させていただきますので、ぜひこの機会に島の太陽と自然の恵みをお召し上がり下さい。

(お問い合わせ先)
小笠原アイランズ農協 母島支店
電話 04998-3-2331
FAX 04998-3-2345

品目	規格	入個数	税込価格(送料別)
小箱	中玉 0.9kg相当	12~13玉	2,600円
中箱	大玉 1.45kg相当	16~19玉	4,300円
大箱	大玉 2.4kg相当	28~30玉	6,900円
特級大箱	特大玉 2.5kg以上	25玉	7,900円

※別途送料がかかります。詳細はお問い合わせ願います。

令和7年北方領土返還要求全国大会

北方四島を返せ

「北方領土の日」の2月7日、「北方領土返還要求全国大会」が同実行委員会の主催によりニッショーホールで開催されました。

小笠原協会は、政府をはじめ各関係団体とともに構成団体として参加しました。

壇上正面スクリーンには「北方四島を返せ」が映され、最初にパネルドレスカッションで、旧島民等から北方領土問題の解決を求める訴えがありました。

その後、中園謙二大会実行委員長の挨拶後、石破内閣総理大臣のビデオメッセージで、「ロシアによるウクライナ侵略により、日露関係は引き続き厳しい状況にあります。しかし、北方領土問題は日本がロシアとの間で抱える最大の懸案事項です。政府として、北方四島の帰属の問題を解決し、平和条約を締結するとの方針を堅持してまいります。また、平均年齢が八十九歳となった元島民の皆様が一日でも早く故郷の土を再び踏むことができよう、ロシア側に対し、特に北方墓参の再開を引き続き強く求めてまいります。」等と述べました。

次に、「北方四島の返還を

令和7年北方領土返還要求全国大会開催

「北方領土の日」の2月7日、「北方領土返還要求全国大会」が同実行委員会の主催によりニッショーホールで開催されました。

小笠原協会は、政府をはじめ各関係団体とともに構成団体として参加しました。

壇上正面スクリーンには「北方四島を返せ」が映され、最初にパネルドレスカッションで、旧島民等から北方領土問題の解決を求める訴えがありました。

その後、中園謙二大会実行委員長の挨拶後、石破内閣総理大臣のビデオメッセージで、「ロシアによるウクライナ侵略により、日露関係は引き続き厳しい状況にあります。しかし、北方領土問題は日本がロシアとの間で抱える最大の懸案事項です。政府として、北方四島の帰属の問題を解決し、平和条約を締結するとの方針を堅持してまいります。また、平均年齢が八十九歳となった元島民の皆様が一日でも早く故郷の土を再び踏むことができよう、ロシア側に対し、特に北方墓参の再開を引き続き強く求めてまいります。」等と述べました。

次に、「北方四島の返還を

硫黄島帰島促進協議会が要望書を提出

一般社団法人硫黄島帰島促進協議会は、2月19日、国土交通大臣に「小笠原村硫黄島への島民帰島と居住に関する要望書」を提出し、段階的、速やかな帰島促進等を要望しました。

ナ侵略により、日露関係は依然として厳しい状況にありますが、政府として、北方四島の帰属の問題を解決し、平和条約を締結するという方針を堅持してまいります。また、御高齢となられた元島民の方々の切実なるお気持ちに何とか応えるべく、ロシア側に対し、今は特に北方墓参に重点を置いて、事業の再開を引き続き求めてまいります。」等と表明。

続いて、岩屋外務大臣の挨拶(代読)では、「ロシアによるウクライナ侵略を受け、日露関係は引き続き厳しい状況にあります。しかし、北方領土問題は日本がロシアとの間で抱える最大の懸案事項です。政府として、北方四島の帰属の問題を解決し、平和条約を締結するとの方針を堅持してまいります。また、平均年齢が八十九歳となった元島民の皆様が一日でも早く故郷の土を再び踏むことができよう、ロシア側に対し、特に北方墓参の再開を引き続き強く求めてまいります。」等と述べました。

次に、「北方四島の返還を

硫黄島帰島促進協議会が要望書を提出

一般社団法人硫黄島帰島促進協議会は、2月19日、国土交通大臣に「小笠原村硫黄島への島民帰島と居住に関する要望書」を提出し、段階的、速やかな帰島促進等を要望しました。

求める」と題し、運動団体代表および元島民の活動報告、伊東北方対策担当大臣の挨拶、最後に大会アピールを採択しました。

小笠原協会では、小笠原が返還された昭和43年6月に、「小笠原の返還、祖国復帰を心から喜び祝う一方、さらに沖繩及び北方領土が一日も早く祖国に復帰し、我々と同じ喜びを分かちあうことができるよう強力な支援を送りたい」との談話を発表しています。沖縄はその昭和47年に復帰しましたが、北方領土は未だ返還されておりません。一刻も早く北方領土が日本に返還されるよう切望いたします。

皆様ありがとうございます

～令和6年12月1日から令和7年2月28日まで

個人賛助会費

- ▽三〇 岡 小枝子
- ▽二〇 二宮 陸雄
- ▽一〇 杉 孝一
- 藤井 省五
- 永坂 彰
- 小山 幸子
- 阿部めぐみ
- 鈴木 雄司
- 手塚 年章
- 橋本 敦史
- ▽新規人会者
- ▽一口
- 角田 早紀
- 米山 紘平
- 星野 友海
- 飯田 純子
- 菊池 知道
- 黒坂 妙子
- 高橋 健一
- 木村 愛子
- 中島ともこ
- 村田 智子
- 山ノ井一哉
- 末包 文
- 瀬川 良太
- 定岡 俊佑
- 土山 彰子
- 鍋島 千波
- 小嶋 一輝
- 富田 隆彦
- 吉野 優希
- 鈴木 典子
- 中川 隆
- 宮城 京華
- 沼田 悦子
- 原 玲子
- 小林 由美
- 辻村 周大
- 小林 利子
- 浅見 順子
- 濱口 葉子
- 田代 義勝
- 矢島真理子
- 船迫 利恵
- 近藤 綾香
- 池田 葉子
- ▽法人賛助会費
- ▽五十口(三十万円)
- ▽硫黄島産業株式会社
- ▽令和7年新年号広告
- 七島信用組合小笠原支店
- 一般財団法人東京都弘済会
- 小笠原商事有限公司
- 日章建設株式会社
- 東京食肉市場株式会社
- 司法書士玉井事務所
- 株式会社品川建設
- 杉田建設株式会社
- 環境保全株式会社
- 社会福祉法人東京福祉会
- 株式会社共勝丸
- 株式会社フローラ
- 鹿島建設株式会社
- 大成建設株式会社
- 令和6年度特集号広告
- 一般財団法人東京都弘済会
- 日章建設株式会社
- 株式会社下ラムエンジニアリング
- 株式会社ナショナルランド
- 東京食肉市場株式会社
- 杉田建設株式会社

令和7年3月1日現在 ()内は前年同月		令和7年2月気象状況 ()内は前年同月(父島)	
住民基本台帳登録者数	最高気温 22.8℃ (24.3℃)	最低気温 10.2℃ (14.7℃)	平均気温 17.3℃ (19.9℃)
○世帯 1,487世帯 (1,523世帯)	平均湿度 67% (76%)	月降水量 60.5mm (71.0mm)	令和7年2月中の来島者数 ()内は前年同月(父島)
父島 1,228世帯 (1,255世帯)	定期船 2,083人 (2,090人)	観光船 0人 (0人)	
母島 259世帯 (268世帯)			
○人口 2,493人 (2,597人)			
父島 2,066人 (2,145人)			
母島 427人 (452人)			

一般社団法人小笠原母島観光協会
東京都住宅供給公社
小笠原海運株式会社
五洋建設株式会社
大成建設株式会社
令和6年度特集号広告
一般財団法人東京都弘済会
日章建設株式会社
株式会社下ラムエンジニアリング
株式会社ナショナルランド
東京食肉市場株式会社
杉田建設株式会社

環境保全株式会社
小笠原島漁業協同組合
小笠原母島漁業協同組合
社会福祉法人東京福祉会
株式会社共勝丸
株式会社フローラ
株式会社ナショナルランド
東京食肉市場株式会社
杉田建設株式会社

賛助会員の皆様には、大変お世話になっております。当協会は、小笠原諸島の旧島民の方々の帰島支援や機関紙等の発行、交流ツアー開催、イベント開催などにより広く全国の皆様の小笠原諸島へのご理解を求め、小笠原村の振興支援の活動を進めています。これらの活動は賛助会員の皆様方の会費収入に支えられており、深く感謝申し上げますとともに、引き続きのご支援をお願いいたします。

また、新たな皆様にも、小笠原ファンづくりと協会の活動の趣旨をご理解いただき、賛助会員へのご入会をお願いしております。

小笠原を愛する方、興味をお持ちの方、ご家族、ご友人など身近な方々に賛助会員へのお誘いを切にお願い申し上げます。

入会は、インターネットで当協会HPのトップ画面から「賛助会員申し込み」↓「会員登録申し込み(こちら)」をご覧ください。
(<http://www.ogasawarak.org/>)電話(03-3432-4921)でのお問い合わせやお申し込みも行ってまいります。(入会申込書の送付も可能)

小笠原のファンを増やそう
小笠原協会賛助会員へご加入のお願い

令和7年度賛助会員更新手続きについて
現在、更新手続きのお知らせをお送りしております。引き続きのご支援をよろしくお願いいたします。

なお、住所等の変更によりお知らせが届かない場合は、お手数をお掛けしますが、協会へご連絡をお願いいたします。

また、GWの乗船割引を受けられる方は、早めのお手続きをお願いいたします。

おがさわら丸の割引証明
賛助会員の方は、「おがさわら丸」の乗船割引が受けられます(2等、特2等)。

割引の詳細は協会のホームページ等でご確認ください。

「おがさわら丸」ご利用の際の割引証明の手続きは、小笠原海運での乗船予約をされる際に、小笠原海運へ賛助会員証の写しをファックス、郵送または、メールに添付してお送りください。

小笠原協会役員会開催
3月に定例理事会を開催し、令和7年度の事業計画並びに収支予算が承認されました。

なお、5月に定例理事会、6月に定時評議員会を開催し、令和6年度の事業報告並びに収支決算報告を予定しております。

ご注意
賛助会員として、おがさわら丸の乗船割引を受ける際のご注意事項

- ①乗船の2週間以上前までに賛助会員の手続きを済ませてください。
- ②小笠原協会の賛助会員証の発行には、賛助会員であること及び当該年度の賛助会費が納入されていることが条件になります。

旧島民及び関係者(ご子孫、配偶者等)の方々へ
また、旧島民及び関係者(ご子孫、配偶者等)の方は、「おがさわら丸」の割引対象です。割引証明をご希望の方は、小笠原協会にお電話ください。

スマホからも入力可能です。
入会申込み
QRコードから

おがさわら丸の割引証明
賛助会員の方は、「おがさわら丸」の乗船割引が受けられます(2等、特2等)。

割引の詳細は協会のホームページ等でご確認ください。

「おがさわら丸」ご利用の際の割引証明の手続きは、小笠原海運での乗船予約をされる際に、小笠原海運へ賛助会員証の写しをファックス、郵送または、メールに添付してお送りください。

訃報
謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

竹原 寿美子様 84歳
令和6年11月25日ご逝去
母島在住

元小笠原支庁
母島出張所職員

大友 きよ子様 83歳
令和7年1月4日ご逝去
父島清瀬在住

赤間 千代子様 96歳
令和7年1月7日ご逝去
父島旧島民配偶者
八丈島大賀郷在住

小笠原協会賛助会員へご加入のお願い
令和7年度賛助会員更新手続きについて
現在、更新手続きのお知らせをお送りしております。引き続きのご支援をよろしくお願いいたします。

なお、住所等の変更によりお知らせが届かない場合は、お手数をお掛けしますが、協会へご連絡をお願いいたします。

また、GWの乗船割引を受けられる方は、早めのお手続きをお願いいたします。

おがさわら丸の割引証明
賛助会員の方は、「おがさわら丸」の乗船割引が受けられます(2等、特2等)。

割引の詳細は協会のホームページ等でご確認ください。

「おがさわら丸」ご利用の際の割引証明の手続きは、小笠原海運での乗船予約をされる際に、小笠原海運へ賛助会員証の写しをファックス、郵送または、メールに添付してお送りください。

小笠原協会役員会開催
3月に定例理事会を開催し、令和7年度の事業計画並びに収支予算が承認されました。

なお、5月に定例理事会、6月に定時評議員会を開催し、令和6年度の事業報告並びに収支決算報告を予定しております。

ご注意
賛助会員として、おがさわら丸の乗船割引を受ける際のご注意事項

- ①乗船の2週間以上前までに賛助会員の手続きを済ませてください。
- ②小笠原協会の賛助会員証の発行には、賛助会員であること及び当該年度の賛助会費が納入されていることが条件になります。

旧島民及び関係者(ご子孫、配偶者等)の方々へ
また、旧島民及び関係者(ご子孫、配偶者等)の方は、「おがさわら丸」の割引対象です。割引証明をご希望の方は、小笠原協会にお電話ください。

スマホからも入力可能です。
入会申込み
QRコードから

おがさわら丸の割引証明
賛助会員の方は、「おがさわら丸」の乗船割引が受けられます(2等、特2等)。

割引の詳細は協会のホームページ等でご確認ください。

「おがさわら丸」ご利用の際の割引証明の手続きは、小笠原海運での乗船予約をされる際に、小笠原海運へ賛助会員証の写しをファックス、郵送または、メールに添付してお送りください。

小笠原航路時刻表 (令和7年4月～令和7年9月)

ハートロック(千尋岩)

運航月時刻	東京発	父島着	父島泊	父島発	父島泊	東京着	父島泊数
4月	11:00	2(火)	3(水)	4(木)	5(金)	6(土)	3泊
5月	11:00	2(火)	3(水)	4(木)	5(金)	6(土)	3泊
6月	11:00	2(火)	3(水)	4(木)	5(金)	6(土)	3泊
7月	11:00	2(火)	3(水)	4(木)	5(金)	6(土)	3泊
8月	11:00	2(火)	3(水)	4(木)	5(金)	6(土)	3泊
9月	11:00	2(火)	3(水)	4(木)	5(金)	6(土)	3泊

※1 さるびあ丸による運航(予定) ※2 八丈島寄港(予定)
◆時刻表は今後の状況により変更となる場合もあります

◎問い合わせ先 小笠原海運株式会社 ☎03-3451-5171

さあ! 母島へ行こう

母島への航路(ホエールライン) (令和7年4月～令和7年9月)

母島は父島の南約50kmに位置しその広さは約21km²です。島の中央に乳房山(463m)があり島の周囲は58kmあります。母島を観光される方は、下記の時刻表でぜひ訪島してください。

運航月時刻	おがさわら丸 父島入港日	おがさわら丸 父島出港日	おがさわら丸 父島出港日	おがさわら丸 父島入港日	その他の日	運休日
4月	12:00	7:30	14:00	7:30	14:00	
5月	14:00	9:30	16:00	9:30	16:00	
6月	14:00	10:00	16:00	10:00	16:00	
7月	14:00	10:30	16:00	10:30	16:00	
8月	14:00	11:00	16:00	11:00	16:00	
9月	14:00	11:30	16:00	11:30	16:00	

◆時刻表は今後の状況により変更となる場合もあります

◎問い合わせ先 伊豆諸島開発株式会社 ☎03-3455-3090

小笠原航路時刻表 (令和7年4月～令和7年9月)

ハートロック(千尋岩)

運航月時刻	東京発	父島着	父島泊	父島発	父島泊	東京着	父島泊数
4月	11:00	2(火)	3(水)	4(木)	5(金)	6(土)	3泊
5月	11:00	2(火)	3(水)	4(木)	5(金)	6(土)	3泊
6月	11:00	2(火)	3(水)	4(木)	5(金)	6(土)	3泊
7月	11:00	2(火)	3(水)	4(木)	5(金)	6(土)	3泊
8月	11:00	2(火)	3(水)	4(木)	5(金)	6(土)	3泊
9月	11:00	2(火)	3(水)	4(木)	5(金)	6(土)	3泊

※1 さるびあ丸による運航(予定) ※2 八丈島寄港(予定)
◆時刻表は今後の状況により変更となる場合もあります

◎問い合わせ先 小笠原海運株式会社 ☎03-3451-5171